

◆第3期奈良県がん対策推進計画のロジックモデル見直し（案）について

資料15

1 がん予防・がんの早期発見
(1)がん予防

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値					
①市町村が主体となった普及啓発の推進 ・企業や団体等と連携した普及啓発 ・各種保健事業を活用し、禁煙支援及び普及啓発 ・広報紙、ホームページ等を活用した情報発信	普及啓発の実施市町村数	増加	1 たばこ対策の充実	禁煙希望者が禁煙できている	成人の喫煙率	9.9%	がん罹患率減少	がん罹患率	減少(12年後評価)					
	②禁煙支援体制の整備・充実 ・市町村・医療機関・事務所等での禁煙支援リーフレットの活用の拡大 ・禁煙支援者の相談技術向上のための研修会の開催	禁煙支援リーフレットの活用機関数			増加	県民が望まない受動喫煙にあわない割合		行政0% 医療機関0% 職場12.4% 家庭2.6% 飲食店14.8%	がんに関する正しい知識を持っている	過去1年間にがん検診を受診した人の割合	50%			
	③禁煙支援の推進 ・住民や従業員を対象とした禁煙のスタートを支援する講習会の開催 ・市町村の検診等での肺機能測定と禁煙指導の実施 ・妊産婦を含めた女性を対象とした禁煙支援の実施	市町村医療機関等禁煙支援協力薬局			増加									
	④未成年者の喫煙防止対策の強化 ・未成年者禁煙支援相談窓口の設置・普及 ・学校・教育委員会と連携した喫煙防止教育の充実	喫煙防止教育の参加人数			増加									
	⑤受動喫煙防止対策にかかる現状の把握と県民への分かりやすい表示の推進 ・市町村庁舎等の禁煙化状況調査の実施、現状の把握 ・関係機関・団体への受動喫煙防止にかかる説明会の実施	敷地内・建物内禁煙の実施市町村数 敷地内禁煙 建物内禁煙 受動喫煙防止対策にかかる説明会の参加			敷地内禁煙 39/39 増加									
①減塩対策の充実 ・減塩教室実施マニュアルの活用促進 ・市町村や企業における健康教育の充実 ・親子減塩教室の開催 ・企業や食育ボランティアと連携・協働した減塩調理、減塩調味料等の普及啓発の促進 ・減塩調味料等の普及啓発の推進 ・食生活改善推進員の食育推進活動の支援強化 ・減塩・野菜摂取を推進する飲食店、スーパー ・市町村・学校・保育所等と連携・協働した食育の推進 ・学校、幼稚園等への食育出前講座の開催 ・夏休み親子料理教室の開催	減塩に関する健康教育を実施する市町村数	増加	2 健康的な生活習慣の普及	成人の塩分摂取量が減少している	成人の1日の食塩摂取量	8g	生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人が減少している	生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合	減少					
	②適正飲酒についての普及啓発の推進 ・市町村、医療機関、薬局等での飲酒量チェックリストの掲示 ・がん検診、特定健康診査受診時の情報提供 ・特定健康診査質問票の飲酒項目を効果的に活用するための研修会の開催 ・適正飲酒に関する保健指導の強化を目的とした研修会の開催 ・特定健康診査質問票による多量飲酒傾向にある人のスクリーニングの実施 ・支援ツールを活用した情報提供 ・支援ツールを用いた個別保健指導	掲示市町村・医療機関・薬局数 研修会参加保険者数 保健指導実施保険者数			増加 増加 増加	運動習慣を有する人が増加している 適性体重を維持している人が増加している		運動習慣を有する人の割合 BMIが 男性:21~27 女性:21~25の人の割合	増加 増加					
	③HTLV-1母子感染予防対策体制の整備 ・奈良県のHTLV-1母子感染支援体制を整備し構築する ・奈良県母子感染予防対策検討会の実施 ・奈良県HTLV-1母子感染予防対策研修会の開催 ・感染予防マニュアル「HTLV-1検査妊産婦支援Q&A」を改正し周知	個別受診勧奨実施市町村数			増加									
	④ヘリコバクター・ピロリの感染についての周知・啓発 ・がん検診等の機会を通じて、リーフレット等を活用した普及・啓発	リーフレットを受診者全員に配布している市町村数			増加									
	①がん対策の強化 ・保健所の肝炎ウイルス検査体制の強化	B型肝炎予防接種率			増加	3 感染症予防の充実		感染症予防のための体制整備ができている	B型肝炎予防接種率	増加	がんに関する患者意識調査の項目			
	・肝炎検査受検率向上となる工夫した情報提供	B型肝炎ウイルス検診受診者数(市町村実施)			増加									
	・陽性者への医療費助成の継続実施	C型肝炎ウイルス検診受診者数(市町村実施)			増加									
	・陽性者の重傷化予防対策の促進	B型肝炎ウイルス検査受検者数(保健所実施)			増加									
	・肝炎医療コーディネーターの養成と活用促進 ・肝炎診療連携拠点病院の取組強化(肝炎患者相談支援センターにおける相談支援、市町村等への技術支援、地域連携、データ分析の活用)	C型肝炎ウイルス検査受検者数(保健所実施)			増加									
	・肝炎診療連携拠点病院の取組強化(肝炎患者相談センターにおける相談支援、地域連携、データ分析の活用)													
・県内医療機関のネットワークの構築と技術的支援														
・B型肝炎ワクチンの予防接種の周知														
・受診者数が増加した市町村の効果的な取組事例をまとめ、市町村への還元														
・市町村は、他の検(健)診と併せて、受診できる体制整備と、受診すべき対象者を選定した受診勧奨の実施														
②HPVの予防に関する国の施策の情報収集・提供 ・国の研究・調査結果等の情報を収集														

・平成30年度、令和元年度とも、未把握
→「奈良県アルコール健康障害対策推進計画」(H31~R5)に基づき、具体的施策、指標(初期アウトカム、中間アウトカム)の検討が必要。

・指標の進捗状況の把握が困難であるため、関係課と検討の上、指標の見直しが必要。

・指標(初期アウトカム、中間アウトカム)の検討

□ : ならのがんに関する患者意識調査の項目
□ : 今回の検討指標
赤字 : 今回新たにもうける指標

1 がん予防・がんの早期発見
 (2)がんの早期発見

施策	指標	目標値	初期アウトカム
①「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催 ・広報紙、インターネットを活用した普及啓発 ・奈良県民会議会員による街頭キャンペーンの実施 ・保健事業を通じた普及啓発 ②企業と連携した(奈良県がん検診応援団)がん検診受診啓発 ・新規会員加入に向けた周知 ・企業との連携による効果的な受診勧奨ツールの作成及び啓発 ③がん検診受診勧奨を推進するための人材育成 ・市町村におけるがん予防推進員の養成 ・企業・団体等と連携した人材育成 ④市町村の受診率向上に向けた取組支援 ・個別受診勧奨・再勧奨の実施方法の検討、評価 ・受診しやすい体制(申込方法が簡便、身近なところで受診できる、周囲からの呼びかけなど)の整備 ・受診率が向上した市町村の取組を好事例としてまとめ、他の市町村に紹介 ・受診しやすい市町村検診体制の整備 セット検診の実施 ・受診しやすい市町村検診体制の整備 休日(土日・祝日)、早朝又は夜間検診の実施 ⑤協会けんぽと連携したがん検診の推進	「がん検診を受けよう！」奈良県民会議登録会員数	増加	1 がん検診の受診促進
	奈良県がん検診応援団企業数	実施、公表	
	がん予防推進員を養成し、ともに受診促進に取り組む市町村数	増加	
	受診勧奨・再勧奨に取り組む市町村数	増加	
	セット検診を実施している市町村数 男性3がん 女性5がん	増加	
	集団検診における休日(土日・祝日)、早朝又は夜間検診を実施している市町村数	増加	
協会けんぽの被扶養者検診と市町村特定健診及びがん検診の同時実施している市町村数	増加		
施策	指標	目標値	初期アウトカム
①がん検診従事者の資質向上のための研修会の継続 ・発見がん症例の追跡調査方法の検討、実施 ・症例検討会の開催 ②がん検診制度管理調査の実施・公表・指導 ・市町村がん検診プロセス指標の評価 ・「がん検診チェックリスト」の使用に関する実態調査の評価 ・集団検診実施機関を対象とした精度管理調査の実施 ・都道府県及び生活習慣病検診等管理指導協議会(各がん検診部会)の活動状況調査報告	がん検診従事研修会の参加者数(延べ)	増加	2 がん検診精度管理の充実
	市町村がん検診チェックリストを用いた実態調査において実施率が80%以上である市町村の数 胃、大腸、肺、乳、子宮 集団 個別		
施策	指標	目標値	初期アウトカム
①石綿ばく露者の健康管理の充実 ・受診後の有所見者に対する保健師による保健指導の充実 ・新規受診者拡大のための対象者への広報 ・保健所保健師による相談の実施	石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	減少	3 石綿の健康影響に対する対策の
	石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査が令和元年度で終了し、市町村の肺がん検診での調査へと移行される →具体的取組、指標の見直しが必要		

中間アウトカム	指標	目標値
がん検診を受けやすい体制整備ができています	がん検診受診率	50%
中間アウトカム	指標	目標値
精度の高いがん検診が実施できている	要精検率	国(目標値)
	精検受診率	(表1-4参照)
	陽性反応適中度	
	がん発見率	
	精検未把握率 精検未受診率	
中間アウトカム	指標	目標値
石綿ばく露健康管理の試行調査の体制整備ができて	石綿ばく露による健康不安を持つ人の割合	減少

分野アウトカム	指標	目標値
がんが早期の段階で発見されている	がん検診における早期がんの割合	増加
がんが早期の段階で診断されている	がん登録における早期がんの割合	増加

- : ならのがんに関する患者意識調査の項目
- : 今回の検討指標
- 赤字 : 今回新たにもうける指標

2 がん医療

(1) がん医療の充実

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値
①拠点病院等の体制整備の充実 ・拠点病院等の適切な人材配置等の指定要件の定期的な確認	・がん化学療法看護認定看護師が配置されている拠点病院・診療病院・支援病院 ・がん専門薬剤師またはがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院 ・がん放射線療法看護認定看護師が配置されている拠点病院	増加 増加 増加	1 がん医療体制の充実	各療法について、県内で安全で質の高い医療が提供できている	がん治療で生じた安全問題を検討している拠点病院の割合 検討会開催回数(1年間)	維持 増加 増加	安全かつ安心な質の高い医療を受けている	5年相対生存率	増加(12年後評価)
・拠点病院等の実地調査の実施				がん患者が必要な時にサポートを受けられるチーム医療体制が整備され、医療従事者間の連携が強化されている	手術・化学療法・放射線クリティカルパスに対し、1年に1回以上パリアンス分析を行っている拠点病院 県内のがん患者が県内がん診療連携拠点病院を受診している割合	増加 増加	がん患者が納得した治療を選択できている	医師による診療・治療内容に満足している	増加
・拠点病院等の研究会等の取組支援 ・県拠点病院を中心とした病院間のネットワークの強化					診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフは、十分に連携している	増加	診断や治療方針について、自分の疑問や意見を十分に医師に伝えられた	がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返り、自身が納得いく治療を選択することができた	増加
②手術療法、放射線療法、薬物療法等の提供体制の充実 ・県拠点病院での人材の育成 ・拠点病院等での術中迅速病理診断や遠隔病理診断の実施体制の整備	・拠点病院の病理診断医師数	増加							
・放射線治療の連携体制の充実 (放射線治療におけるメール会議の実施) ・高精度放射線治療の集約化の検討 ・多地点Webカンファレンス(薬物療法)の継続実施 ・県拠点病院を中心とした薬物療法の副作用評価や対応マニュアルの作成と共有化									
③チーム医療提供体制の充実 ・多職種でのカンサーボードの実施 ・薬物療法等の医療チーム研修会の継続実施									
④がん患者の口腔ケアの医科歯科連携の充実 ・登録歯科医にかかる課題把握 ・登録歯科医のスキルアップ研修会の実施 ・医科歯科連携を促進するための研修会の実施									
⑤小児・AYA世代のがん医療の連携促進 ・協力連携体制の強化となる「近畿ブロック小児がん診療病院連絡会」に継続し参画 ・医療従事者の資質向上をめざし「阪奈和小児がん連携施設連絡会」に継続し参画 ・小児がん医療にかかる情報提供や相談窓口の充実 ・国の施策の情報を収集・検討									
⑥新たながん医療の実施に向けた検討 ・国の施策の情報を収集 ・がん診療連携協議会への情報提供と検討									
①拠点病院等のがん医療の評価・分析 ・拠点病院等の実地調査による医療提供体制の実態把握及び評価分析	・悪性腫瘍手術の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分)) ・放射線治療(体外照射)の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分)) ・外来化学療法の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	増加 増加 増加	2 がん医療の質の向上						
・がん治療における安全上の問題の把握	・拠点病院等での医療安全管理部門等での検討会の開催	増加							
・業務改善のためのPDCAサイクルによる評価・分析									
②医療の質の評価方法の検討 ・分野別の部会横断的に医療の質を測る評価方法を検討 ・拠点病院が国の医療の質にかかる研究事業に参画	・医療の質の評価方法について検討結果の公表	3年以内に公表							
③医療関係者へのがん診療情報の見える化 ・拠点病院等の取組や人材配置等の比較 ・拠点病院等に向けたがん診療機能・実績等情報のとりまとめ ・とりまとめ結果をがん診療連携協議会等機会を捉えフィードバック	・実地調査の結果について、がん診療連携協議会等で情報共有	継続実施							
施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値			
①患者目線でのがん診療情報の見える化 ・診療実態データの把握・分析 ・適切でわかりやすい情報提供方法の検討、とりまとめ ・診療情報の「がんネットなら」でのわかりやすい情報提供やリーフレット等での周知	・診療機能、診療実績等の情報提供内容、周知方法等の検討結果の公表	2年以内に公表	3 患者目線でのがん診療情報の提供	がん患者やその家族に必要な情報を提供できている	がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、患者がほしい情報を提供している	増加			
②がん診療情報の提供内容及び周知の充実 ・拠点病院自らが、院内がん登録情報等を活用し、がん診療情報等を公表					がん治療方法についての情報が不十分である 病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	減少			
・国等の最新情報の把握・とりまとめ ・実態把握のための「ならのがんに関する患者意識調査」等アンケート調査の継続実施	・担当医からセカンドオピニオンの説明を受けた割合	増加							
・医療従事者からの情報提供の強化 「がんネットなら」などの情報の周知、複数科が連携した妊孕性等の情報提供の推進	・医師から不妊への影響について説明を受けた割合(40歳未満)	増加							
・がん診療連携協議会と連携した、診断時からの情報提供の強化	・病院等での「療養ガイド」等の配布数	増加							
・患者に必要な医療情報等を拠点病院と連携し地域に向けて情報発信	・「がんネットなら」の認知度、アクセス数	増加							

：ならのがんに関する患者意識調査の項目

：今回の検討指標

赤字：今回新たにもうける指標

・H29年度の現況報告の項目
・H30年度以降の現況報告では、項目が削除されている。
→そのため、新たな指標の検討が必要！
<指標案>
・医療安全委員会の年間開催回数

・H29年度の現況報告の項目
・H30年度以降の現況報告では、項目が削除されている。
→そのため、新たな指標の検討が必要！
<指標案>
・自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じている。
その際に、
・QIを利用している拠点病院数
・医療安全、ガバナンス、緩和ケアの質、倫理の実践、教育研修等に関して、第三者評価を行っている拠点病院数
・医療安全、ガバナンス、緩和ケアの質、倫理の実践、教育研修等に関して拠点病院間の実地調査等を用いている拠点病院数

・H29年度の現況報告の項目
・H30年度以降の現況報告では、項目が削除されている。
→そのため、新たな指標の検討が必要！
<指標案>
・医療安全委員会の年間開催回数

2 がん医療

(2) がん診断された時からの緩和ケア

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値			
① 拠点病院等の緩和ケア提供体制の質の向上 ・がん診療連携拠点病院等でのがん看護カウセリングの実施促進 ・地域と連携した緩和ケア外来の利用促進 ・緩和ケアチーム研修会の実施	・がん患者カウセリングを実施している病院数	増加	1 緩和ケア提供体制の充実	質の担保された緩和ケア提供体制(緩和ケア外来、チーム医療)が整備されている	緩和ケアチームにおける年間新規診療症例数	増加	身体的、精神的、社会的苦痛が緩和されている	からだの苦痛に対する希望に応じた緩和ケアの早い提供・症状改善の状況	増加			
	・緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数	増加			緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数	増加		気持ちのつらさに対する希望に応じた緩和ケアの早い提供・症状改善の状況	増加			
	・緩和ケアチーム研修会の参加医療機関数	増加			がん患者指導管理料(イ・ロ)の算定件数(NDB)	増加		がん治療を受けながら働き続けられる環境だと思える	増加			
	・緩和ケアチームによる年間新規症例数	増加										
	・診断時からの苦痛のスクリーニング等、緩和ケア提供体制に関する評価・分析・公表	緩和ケア提供体制に関する評価・分析の公表(年1回)			実施							
	・緩和ケア提供体制の指定要件の確認及び評価・分析	・がん患者指導管理料イを算定している医療機関数			増加	診療報酬改定による変更						
	・業務改善のためのPDCAサイクルによる評価・分析	・がん患者指導管理料ロを算定している医療機関数			増加							
	② 医療従事者への緩和ケア研修会の充実 ・拠点病院等の医師の緩和ケア研修の受講の徹底 ・緩和ケアフォローアップ研修の検討・実施	・拠点病院における緩和ケア研修会受講率(医師)			90%以上							
	・緩和ケアフォローアップ研修(アドバンス研修)受講者数	増加										
	・看護師等のための緩和ケア研修会の検討・実施	・看護師等の緩和ケア研修会(ELNECJ)の受講者数			増加							
① 緩和ケアに関する情報の充実、普及啓発 ・「がんネットなら」「がん患者さんのための療養ガイド」等の内容の充実 ・拠点病院等の地域に向けた公開講座の実施 ・患者に必要な医療情報等を拠点病院等と連携し地域に向けて情報発信(がん診療情報の見える化推進事業)	・「がんネットなら」認知度、アクセス数	増加	2 緩和ケアの理解促進と情報提供の充実	がん患者の緩和ケアについての正しい理解が進んでいる	緩和ケアはがん診断された時から受けるものだと知っている	増加						
	・拠点病院等の地域に向けた公開講座の実施	増加										
	・患者に必要な医療情報等を拠点病院等と連携し地域に向けて情報発信(がん診療情報の見える化推進事業)	・がんネットならにて公表			公表							

2 がん医療

(3) 地域連携

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値		
① 地域連携クリティカルパスの活用促進 ・地域連携クリティカルパスの活用状況の評価・分析 ・拠点病院等での緩和ケアパスの推進 ・国の地域連携クリティカルパスのあり方の検討を受け、県での地域連携のあり方を検討 ② 拠点病院等と病病連携・病診連携の促進 ・地域の多職種連携のカンファレンスの実施 ・拠点病院における多施設合同会議の実施 ・地域連携会議の実施 ・国の地域緩和ケア連携調整員研修受講の検討 ① 在宅医療機能の把握・公表 ・拠点病院等が在宅緩和ケアに対応できる診療所等の在宅医療機能の把握・公表 ・県内の病院等の在宅医療の取組の把握 ・「がんネットなら」等での在宅医療機能の情報提供 ② 在宅緩和ケアに携わる人材育成 ・地域のかかりつけ医等への緩和ケア研修会 ・地域の医療・介護従事者への緩和ケア研修の実施 ① 在宅療養生活に役立つ情報内容の充実 ・「がんネットなら」や広報誌等での普及啓発	地域連携パスの活用状況の把握・公表	増加	1 拠点病院等の地域連携体制の充実	がん診療連携拠点病院等とかがかりつけ医・在宅医とのスムーズな医療連携ネットワーク体制が整備されている	病院から診療所・在宅医療(看護も含む)へ移った際、病院での情報(診療方針)が診療所、訪問看護ステーションに円滑に伝わった	増加	住み慣れた場所で、療養生活を送ることができる	がん患者の在宅死亡割合	増加		
	・緩和ケアパスを整備している拠点病院数	増加			・H29年度の現況報告の項目・R元年度以降の現況報告では、項目が削除されている。 →奈良県の調査で確認するか。	地域連携クリティカルパス適用患者件数		増加	居住する地域にかかわらず、質の高い医療を受けられる	在宅緩和ケアについて、希望し、実現可能	増加
	・多職種カンファレンスの実施回数	増加			・H29年度の現況報告の項目・H30年度以降は、「多職種連携カンファレンス」→「多施設合同会議」に名称変更 ・地域連携会議についても既存の会議体を利用することとなっているため、多職種合同会議の実施を指標とする。 <指標の変更> ・多施設合同会議の実施回数	緩和ケアに関してがん診療連携拠点病院等と地域で連携体制が整備されている		がん診療連携拠点病院における緩和ケアに関する地域多職種カンファレンスの開催回数	増加		
	・地域連携会議の実施	増加						在宅療養支援診療所数	増加		
	・国の地域緩和ケア連携調整員研修受講の検討	増加									
	・在宅医療機能の公表	増加									
	・在宅医療機能の公表	増加									
	・在宅医療機能の公表	増加									
	・在宅緩和ケア研修会の参加者数	増加									
	・医療・介護従事者への緩和ケア研修会の実施回数、参加	増加									
・地域連携パスの認知度	増加		3 がん患者や県民への情報提供と普及啓発	がん患者が地域連携や在宅医療について、必要な情報提供を受けている	自宅での療養生活についての情報が不十分である	減少					
・「がんネットなら」の認知度・アクセス数	増加										

□ : ならのがんに関する患者意識調査の項目

□ : 今回の検討指標

赤字 : 今回新たにもうける指標

3 がん患者等への支援

(1) 相談支援及び情報提供

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値			
①がん相談支援センターの利用促進と相談支援の質の向上 ・拠点病院等院内での広報の周知 ・拠点病院等の主治医等による患者への周知 ・県民だより等、機会を捉えた周知 ・拠点病院等の医師に対する周知 ・拠点病院と連携した地域の講演会等での ・国立がん研究センター相談員指導者研修等の継続受講 ・県拠点病院等による、相談員を対象とした研修会の実施 ・相談員の配置の把握とフィードバック ・がん相談支援センター利用者満足度調査の実施 ・業務改善のためのPDCAサイクルによる相談業務の評価・分析	・がん相談支援センターの利用者数	増加	1 相談支援機能の強化	がんに関する情報が得やすい体制ができています がん患者やその家族等が、質の高い相談支援が受けられる体制ができています	がんに関する情報(治療方法、診療体制、治療費用、社会保障制度など)が不十分である	減少	がん患者の不安や悩みが軽減されている がん患者の不安や悩みの発生が抑えられている	がんと診断されたことによる心配や悩みは何かの支援によって現在は軽減した	増加			
	・相談支援センターの認知度	増加			がん相談支援センターを利用して、相談が役に立った	現状維持(100%)		からだや治療のことで心配になったとき、担当医以外にも相談できるところがある	増加			
	②ライフステージ等に応じた相談支援体制の整備 ・小児、AYA世代等世代に応じた相談窓口の検討と整備 ・小児・AYA世代のがん患者のニーズの情報収集と交流会の実施 ・相談員を対象とした研修会の実施	・国立がん研究センター研修【指導者研修】を受けた相談員数			増加							
	・アピアランスケアに対応できる相談体制の検討と整備	・がん治療による外見の変化に関する悩みを相談できた割合			増加							
	③ピア・サポートの活性化 ・がん患者サロンの継続実施 ・相談員の情報の場「がん患者サロン運営者会議」の継続実施 ・がん患者サロン運営者(相談員等)のための勉強会の実施 ・拠点病院がピア・サポーターと連携し「運営会議」を継続実施 ・がん患者サロンの利用者拡大のための周知 ・女性特有のがんなどがん種別のがん患者サロンの検討・実施 ・国のピア・サポート活動実態調査や養成研修の見直し結果に基づいたピア・サポーターの養成 ・民間の相談支援の場である、がん患者団体の活動発表や情報交換の場の提供促進	・がん患者サロンの利用者数			増加							
		・がん患者サロン運営者会議の開催回数			実施継続							
		・がん患者サロン運営会議の開催回数(各拠点病院)			実施継続							
		・がん患者サロンの認知度			増加							
	①患者に必要ながんに関する情報の見える化 ・診療実態データの把握・分析 ・適切でわかりやすい情報提供方法の検討、とりまとめ ・がん診療情報の「がんネットなら」でのわかりやすい情報提供やリーフレット等での周知 ・拠点病院自らが、院内がん登録情報等を活用し、がん診療情報等を公表 ・実態把握のための「ならのがんに関する患者意識調査」等アンケート調査の継続実施 ・国が体制を整備していく妊孕性等にかかる情報など、最新情報を把握とりまとめ ②がんに関する情報の周知強化 ・「がんネットなら」や「療養ガイド」、県民だより等での情報提供 ・医療従事者を対象に「がんネットなら」などの情報の周知強化 ・患者に必要な医療情報等を拠点病院と連携し地域に向けて情報発信	・「がんネットなら」の認知度			増加	2 患者目線での情報提供の充実						
		・「がんネットなら」のページビュー数			増加							

□ : 今回の検討指標

□ : ならのがんに関する患者意識調査の項目

赤字 : 今回新たにもうける指標

3 がん患者等への支援

(2) がん患者の就労を含めた社会的な問題

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値					
①拠点病院での就労相談の充実 ・拠点病院の就労相談の継続実施	・就労相談の実施回数、利用者数	増加	1 がん患者の治療と仕事の両立等の相談支援体制の充実	事業所と医療機関、県、国(労働局等)の有機的な連携が一層推進している	仕事と治療の両立支援体制のある事業所の割合	増加	がん患者やその家族が抱える仕事と治療の両立についての不安が軽減されている	がんの治療を受けながら、働き続けられる環境だと思える	増加					
		増加				増加								
	・相談窓口周知リーフレットの作成	・就労相談窓口の認知度			増加	がん患者に仕事と治療の両立についての必要な情報を提供できている		がんで初めて治療・療養したとき、一定期間(連続して3か月以上)仕事を休み、復職、復帰した	増加	がん患者が働くことが可能で、働く意欲のあるがん患者は安心して働くことができる	がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援が受けられた	増加		
		・就職相談窓口の認知度			増加									
	・医療従事者の理解促進のための研修会の実施	・医療従事者の研修会実施回数			増加	2 がん患者の治療と仕事の両立支援体制の整備		・職場環境調査の実施・公表	実施・公表	2 がん患者の治療と仕事の両立支援体制の整備				
	・相談員の資質向上のための研修会の実施	・リーフレットの配布部数			増加									
	・社会保険労務士・相談員の情報交換会の実施	・情報交換会の実施回数			継続実施									
	・出張相談窓口の検討・実施													
	・相談窓口の検証・ニーズ把握													
	②県内の治療と仕事の両立支援相談窓口の連携・周知 ・働き方にかかる相談窓口を連携し周知	・治療前に就労の継続について、医療スタッフから説明した割合			増加								3 就労を含めた社会的な問題等の情報提供の充実	①両立支援の事例を活用した情報発信 ・「奈良県社員・シャイン職場づくり企業」への登録促進
①事業所の両立支援の体制整備の推進 ・労働・雇用部局と連携した実態把握	・職場環境調査の実施結果の公表	実施・公表												
・全国健康保険協会奈良支部等団体と連携した事業者への啓発(講演会、広報誌等)														
・奈良産業保健総合支援センターの事業所向けセミナーや産業医等への研修等の周知														
②両立支援の連携体制の整備 ・県のがん患者等支援部会に両立支援の関係機関が参画														
・奈良労働局の「就職支援連絡協議会」にがん患者等支援部会委員が参画														
・奈良労働局の「地域両立支援推進チーム」に県や就労関係者が参画														
①両立支援の事例を活用した情報発信 ・「奈良県社員・シャイン職場づくり企業」への登録促進	「奈良県社員・シャイン職場づくり推進事業」のがん治療と仕事の両立支援企業登録数	増加												
・県ホームページ等で表彰事業所や好事例を周知	・情報発信した好事例の企業数	増加												
・両立支援体験者の事例収集														
・好事例を「がんネットなら」や県民だより、関係機関の広報誌等で周知														
②社会的な問題等の情報提供 ・「がんネットなら」、県民だより、新聞広告等機会を捉えた情報提供														
・拠点病院と連携した地域向け講演会での周知														
・社会的な問題(QOLの向上、外見の問題、生殖機能の温存、がん患者の自殺、高齢者の問題等)を情報収集し、発信														

□ : ならのがんに関する患者意識調査の項目

□ : 今回の検討指標

赤字 : 今回新たにもうける指標

4 がん登録

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値							
①全国がん登録のスムーズな運営	全国がん登録オンラインシステムでの申請可能な医療機関数	増加	1 がん登録の精度向上	がん登録データの精度が向上し、データを有効活用している	DCN:死亡情報で初めて把握された症例 DCO:死亡情報のみの症例 MI比:死亡/罹患比	減少	医療の質が向上している	5年相対生存率	増加 (12年後評価)							
②がん登録の精度向上 ・がん登録担当者研修会の実施	研修参加医療機関数	増加								地域でがん登録データが活用しやすい	データ活用件数	増加				
①がん登録データの分析 ・がん登録データ(地域がん登録、院内がん登録、全国がん登録)の把握 ・予防・早期発見にかかるデータの把握	・各種分析及び評価の結果の公表	3年以内に段階的に公表	2 がん登録データ等を活用したがん対策の検討・実施	県民が、全国がん登録について正しい理解が進んでいる	がん登録の認知度	増加	がん登録に基づいた適切な情報を得ることができている	がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	減少							
②データを活用したがん対策の検討・実施 ・医療機関や市町村等と連携したデータ分析の検証 ・死亡率の分析結果や地域別課題に応じたがん対策の検討 ・市町村や医療関係者に向けた効果的ながん対策の提言 ・全国がん登録データの提供体制の整備(審議会等の設置・運営)	・検討結果を公表	2年以内に公表								③患者目線でのがん診療情報の見える化 ・診療実態データの把握・分析 ・適切でわかりやすい情報提供方法の検討、とりまとめ ・診療情報の「がんネットなら」でのわかりやすい情報提供やリーフレット等での周知	②医療関係者へのがん診療情報の見える化 ・拠点病院等の取組や人材配置等の比較 ・拠点病院等に向けたがん診療機能・実績等情報のとりまとめ ・とりまとめ結果をがん診療連携協議会等機会を捉えフィードバック	③全国がん登録の普及啓発の推進 ・「がんネットなら」、チラシ等を活用した普及啓発	・「がんネットなら」ページビュー数	増加	・チラシ配布数	増加
③全国がん登録の普及啓発の推進 ・「がんネットなら」、チラシ等を活用した普及啓発	・「がんネットなら」ページビュー数	増加								③データを活用した情報提供等	がん登録に基づいた適切な情報を得ることができている	がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	減少			

5 がん教育・普及啓発

施策	指標	目標値	初期アウトカム	中間アウトカム	指標	目標値	分野アウトカム	指標	目標値
①がん教育用教材等の内容更新 ・がん教育推進に向けた計画と評価方法の検討 ・がん教育に関する計画の検証	中学校・高等学校におけるがん教育の実施率	増加	1 中学校・高等学校におけるがん教育の充実、推進	中学校、高等学校において、がん教育教材を使用したがん教育が実施できている	中学校、高等学校のがん教育の実施率	増加	児童・生徒が、子どもの頃からがんに関する正しい知識を持ち、がんの予防や早期発見に注意を払っている。また、自分や身近な人ががんになっても、それを正しく理解し、向き合っている。	早期発見すれば、がんは治りやすい	中高生のがん教育実施前後の向上率の向上
②外部講師を活用したがん教育の推進									
①イベントを活用した小学生への検討 ・がん教育の普及啓発	小学校におけるがんに関する啓発の実施率	増加	2 小学校(高学年)におけるがんに関する啓発活動の推進	教員を対象としたがん教育に関する研修の実施	教員を対象としたがん教育に関する研修	維持	がん検診を受けられない年齢になつたら検診を受けようと思う	がんになつている人も過ごしやすい世の中にした	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う
②がん教育の取組の周知									
③がん医療等各分野での情報提供の推進 ・「がんネットなら」を活用した普及啓発の促進	「がんネットなら」のページビュー数	増加	4 がん対策全般に関する普及啓発						

□ : ならのがんに関する患者意識調査の項目

□ : 今回の検討指標

赤字 : 今回新たにもうける指標